

## 授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分       | 授業科目の名称                           | 講 義 等 の 内 容  | 備 考 |
|----------------|-----------------------------------|--|-----|
| 臨床心理学<br>基幹科目群 | 臨床心理学原論                           | 臨床心理分野専門職大学院の理念に添い、臨床心理学の全体像をより実践的に広く理解できることを目標とする。そのために臨床心理学の歴史を踏まえ、その専門性と対人援助観、基本的論点、研究倫理及び職業倫理、心理面接の構造や面接経過、心理アセスメントの原則、プレイセラピーの意義と実際、災害時の心理支援等について学習する。専門職大学院の特徴を踏まえ、講義を中心にしながらも、ロールプレイやディスカッションを積極的に導入し、臨床心理学の根幹となる知識や技法を体得することを目指す。  |     |
|                | 臨床心理面接学原論<br>(心の健康教育に関する理論と実践)    | 臨床心理面接の理論と実際について、専門職大学院の理念に添い、講義形式に加え、事例論文講読演習、ロールプレイなどを導入し、心理面接技法、事例の見立て方、事例報告のまとめ方などについて心理相談における基礎的な技術を習得することを目指す。さらに、心の健康教育の一環として学校領域や医療・保健領域での心理支援のあり方、震災支援等の危機状況での心理や支援のあり方について学習する(公認心理師到達目標①)。具体的には、心理臨床の歴史、臨床心理面接の意義や概念、臨床心理学における職業倫理及び研究倫理、治療構造論、学校領域及び医療・保健領域での心理支援のあり方の共通点と相違点、自己治癒力の観点からの表現療法におけるコラージュ療法を体験し、実践的学習を通して技法の基礎を修得することを目指す(公認心理師到達目標②)。                      |     |
|                | 臨床心理査定演習Ⅰ<br>(心理的アセスメントに関する理論と実践) | 心理アセスメントには観察法、面接法および心理検査法がある。これらを踏まえ、まず概論として臨床心理学及び公認心理師の実践における心理アセスメントの位置づけや意義、導入する際の心構えについて学習する(公認心理師到達目標①)。次いで、臨床心理学及び公認心理師の実践における心理アセスメントに関する理論と方法論について学習する(公認心理師到達目標②)。さらに、具体的な事例を用いて、代表的な手法の実施法や解釈法に取り組む。とりわけ知能検査法や投映法等を重点的に取り上げ、施行法から解釈、フィードバックのあり方について学習する。また、本演習では、テスト・テスター体験を導入して体験的に学んでいく。さらには、心理支援における心理に関する相談、助言、指導等に際して、心理アセスメントをどのように活用していくかの基本的な姿勢を学習する(公認心理師到達目標③)。 |     |
|                | 臨床心理査定演習Ⅱ                         | 「臨床心理査定演習Ⅰ」を受け、心理検査を用いた実際の事例解釈のあり方を学習する。ロールシャッハ法を軸としたテスト・バッテリーの組み方や施行法、解釈について、代表的な臨床事例や健常群の事例を用いて学習する。そのなかで、実施上の留意点や心理面接での役立て方、フィードバックのあり方など、統合的な人格理解について体験的に学習する。さらに臨床群に特徴的なプロトコルを学習する。健常群の事例検討では、描画(樹木画)、SCT、WAIS、ロールシャッハ法などのテスト・バッテリーを用いた対象者の心理的力動のあり方を通して多面的立体的な人物理解を目指す。  |     |
|                | 臨床心理面接演習Ⅰ<br>(心理支援に関する理論と実践)      | 心理面接の契約の仕方、事例の見立て方、面接過程を促進するための導入期、展開期、終結期の技法と留意点などの基本的知識と技能を、文献から学ぶことに加え、ロールプレイなどの実際体験をとおして臨床実践力として修得することを目指す。<br>また、力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の心理療法の理論と方法の基礎的理論を学ぶ。さらにその基礎的理解をもとに、心理療法の相談、助言、指導等への応用と支援対象者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学習し、臨床心理士及び公認心理師の実践について知識を得る。  |     |

授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分       | 授業科目の名称                      | 講 義 等 の 内 容   | 備 考 |
|----------------|------------------------------|---|-----|
|                | 臨床心理面接<br>演習Ⅱ                | <p>受講生の臨床心理面接についての基礎理解と体験的理解を深化させることを目標とする。体験的理解の基盤となるのは、受講生自身が経験する心理臨床相談室における電話受付、インテーク陪席ならびに学外実習での臨床体験である。本演習においては、受講生同士が相互にディスカッションを行い、知識と体験を融合し、自らの体験と結びつけながら深化させることで臨床心理面接を実施する構えを養う。さらに、この授業を通して個別支援能力、集団支援能力、地域支援能力を涵養することを目標とする。</p> <p>本授業では、グループ調査、発表、ディスカッションにより授業が進められる。</p>  |     |
| 臨床心理学<br>基幹科目群 | 臨床心理査定・<br>面接実習Ⅰ<br>(心理実践実習) | <p>心理臨床相談室における学内実習の基本事項を実践的に学ぶ。<br/>(8名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>(久保陽子・稲谷ふみ枝 / 15回)</p> <p>電話受付、インテーク面接から来談契約、構造化された臨床心理面接に至るまでの流れについて実習を通して理解する。<br/>(宇都宮敦浩・大石英史 / 15回)</p> <p>窓口受付業務全般、書類・心理検査・遊具・備品など設置場所の確認、カルテの保管等の事務的な事項について実習を通じて理解する。<br/>(中原睦美 / 15回)</p> <p>ロールプレイを通じて、クライアントとセラピスト各立場による体験の相違を捉え、クライアント理解と面接の流れをつかむ訓練を行う。<br/>(吉村隆之・高橋佳代・中村真樹 / 15回)</p> <p>ロールプレイを通じて、クライアントを発達的な視点から理解を行い、発達課題の視点から捉え直せるよう基本的知識や技術を身につける。</p> <p>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p> | 共同  |
|                | 臨床心理査定・<br>面接実習Ⅱ<br>(心理実践実習) | <p>心理臨床相談室における実際の心理面接を通して、心理臨床における心理面接のあり方の基礎を実践的に学ぶ。<br/>(8名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>(宇都宮敦浩・稲谷ふみ枝 / 15回)</p> <p>インテーク面接の目的を理解し、クライアントの現況や主訴の聴取、来談契約の受付、インフォームド・コンセント等について、実践的に学習する。<br/>(中原睦美・大石英史 / 15回)</p> <p>わが国における代表的な臨床心理面接技法に関して、心理面接を通して体験的に学習する。<br/>(久保陽子 / 15回)</p> <p>クライアント中心療法の適用事例を通し具体的に実習することで、その治療的意義を学習する。<br/>(吉村隆之・高橋佳代・中村真樹 / 15回)</p> <p>認知行動療法の治療技法について適用事例を通し学習する。</p> <p>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>   | 共同  |

授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分       | 授業科目の名称  | 講 義 等 の 内 容   | 備 考 |
|----------------|--|---|-----|
| 臨床心理学<br>基幹科目群 | 臨床心理査定・<br>面接実習Ⅲ<br>(心理実践実習)                       | <p>心理臨床相談室における実際の心理査定を通して、心理臨床における心理査定のあるべき基礎を実践的に学ぶ。<br/>                     (8名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>                     (稲谷ふみ枝 / 15回)</p> <p>相談事例における知能検査、発達検査、質問紙による性格検査の適切な施行法や解釈のあり方について学習する。<br/>                     (宇都宮敦浩・大石英史 / 15回)</p> <p>相談事例の心理査定における児童、父母、親族、その他に対する聴き取りのテクニックについて学習する。<br/>                     (吉村隆之・中原睦美 / 15回)</p> <p>相談事例の心理査定におけるテストバッテリーの組み方について学習する。<br/>                     (久保陽子・高橋佳代・中村真樹 / 15回)</p> <p>相談事例の心理査定における対象者へのフィードバックのあり方について学習する。</p> <p>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>   | 共同  |
|                | 臨床心理査定・<br>面接実習Ⅳ<br>(心理実践実習)                       | <p>心理臨床相談室における実際の心理査定・心理面接を通して、心理臨床における心理査定・心理面接のより高度な側面を実践的に学ぶ。<br/>                     (8名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>                     (吉村隆之・稲谷ふみ枝 / 15回)</p> <p>相談事例における投映法による性格検査の適切な施行法や解釈のあり方について学習する。<br/>                     (宇都宮敦浩・大石英史 / 15回)</p> <p>臨床心理面接実習の発展的課題として、より効果的で効率的な臨床心理面接を行うために必要な技法の習得を目指す。<br/>                     (中原睦美 / 15回)</p> <p>パーソナリティ診断の重要性を認識し、各自でパーソナリティ検査が実施できるよう学習する。<br/>                     (久保陽子・高橋佳代・中村真樹 / 15回)</p> <p>発達段階、発達的特徴を評価できるよう、各自で新版K式発達検査やWISC-IVといった発達検査・知能検査を実施できるようにする。</p> <p>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p> | 共同  |
| 臨床心理学<br>展開科目群 | 臨床心理関連<br>行政論<br>(司法・犯罪<br>分野に関する<br>理論と支援の<br>展開) | <p>心理臨床家に必要とされる法律や倫理について学ぶ。教育、福祉、医療、司法・矯正の各領域において、それぞれの専門機関の運用根拠となる法律や臨床心理の実務に関連する条文に触れ、法的枠組みの下での心理臨床の実践について基礎的な知識を身につける。また、法令根拠が異なる関係機関同士の連携のあり方や心理臨床家としての役割について、具体的な事例をもとにして理解を深める。更に、個人情報保護、説明責任、守秘義務などの人権、倫理にまつわる問題についても理解と認識を深めるため、討議形式による演習を進めていくとともに、司法・犯罪分野に関わる臨床心理士及び公認心理師の実践について学ぶ。犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学びを深める。</p>   |     |

授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分       | 授業科目の名称                   | 講 義 等 の 内 容   | 備 考 |
|----------------|---------------------------|---|-----|
| 臨床心理学<br>展開科目群 | 臨床心理事例<br>研究演習Ⅰ           | <p>1年次の学習を受け、心理臨床に関わる基礎的理解や実践を基に、最近の理論や技法を体系的・実践的に学習する。特に心理面接技法に焦点を当て、自らの体験事例を中心に1年次の学習を深化させながら、論文執筆に繋がる学びを得ることを目標とする。<br/>                     (2名の教員によるジョイント担当)<br/>                     (中村真樹・吉村隆之 / 1回)</p> <p>授業進行に関するオリエンテーションと共に、事例研究論文に関する概説を行う。<br/>                     (中村真樹 / 7回) (吉村隆之 / 7回)</p> <p>公刊された事例研究論文および自らの体験事例をもとに、論文構成、事例の概要や面接経過の記述、考察の視点などについて学ぶ。</p>  |     |
|                | 臨床心理事例<br>研究演習Ⅱ           | <p>1年次に学習した臨床心理学原論、臨床心理面接学原論、臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ、臨床心理面接演習Ⅰ・Ⅱ、臨床心理査定・面接実習Ⅰ・Ⅱを受け、心理臨床に関わるさらに発展的な、そして、最近の心理臨床理論や心理臨床法を体系的・実践的に学習する。内容は、論文執筆に焦点を当てた臨床心理事例研究演習Ⅰとは異なり、ここでは臨床心理士に関わる多くの領域で導入される表現療法の意義やあり方について体験的に学習し、さらに発達障害における発達理解および療育的支援の実際などを学習することを通して、多様な心理臨床の実際を修得することを目的とする。<br/>                     (2名の教員によるジョイント担当)<br/>                     (中原睦美 / 7回)</p> <p>心理査定における研究倫理や職業倫理、テスト・バッテリーや所見の書き方、多様な臨床領域における心理臨床のあり方や描画法及びコラージュ療法に関する内容について体験的・実践的に学習する。<br/>                     (宇都宮敦浩 / 7回)</p> <p>思春期臨床や非行臨床におけるロールシャッハ・テスト、TAT、各種描画法の活用法、及び、実施・分析法について体験的・実践的に学ぶ。<br/>                     (中原睦美・宇都宮敦浩 / 1回)</p> <p>授業内容のまとめを行い、内容理解の深化を図る。</p> |     |
|                | 臨床心理実践<br>研究Ⅰ<br>(心理実践実習) | <p>学内実習を通して得られた心理臨床の力を、臨床心理地域援助に活用できるような臨床実践能力の定着・深化を図る。<br/>                     (4名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>                     (中原睦美 / 全15回)</p> <p>地域援助のできる臨床心理査定の基礎的能力を養う。<br/>                     (久保陽子 / 全15回)</p> <p>地域援助のできる臨床心理面接の基礎的能力を養う。<br/>                     (稲谷ふみ枝 / 全15回)</p> <p>地域援助を行う臨床心理士としての基本的視点を学ぶ。<br/>                     (高橋佳代 / 全15回)</p> <p>地域援助を行う臨床心理士としての倫理を学ぶ。<br/>                     また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>   | 共同  |

授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分               | 授業科目の名称                   | 講 義 等 の 内 容   | 備 考 |
|------------------------|---------------------------|---|-----|
|                        | 臨床心理実践<br>研究Ⅱ<br>(心理実践実習) | <p>臨床心理査定や臨床心理面接の基本的能力の獲得を確認し、個別、集団、地域、危機介入などの臨床心理地域援助能力に結びつける。<br/>(4名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>(宇都宮敦浩 / 全15回)</p> <p>地域援助における個別支援の実践力を身につける。<br/>(大石英史 / 全15回)</p> <p>地域援助における地域支援の実践力及び危機介入の考え方を身につける。<br/>(中村真樹 / 全15回)</p> <p>地域援助における集団支援の考え方を身につける。<br/>(久保陽子 / 全15回)</p> <p>地域援助における心理査定の実践力を身につける。<br/>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p> | 共同  |
| 臨床心理<br>学展<br>開科<br>目群 | 臨床心理実践<br>研究Ⅲ<br>(心理実践実習) | <p>地域援助者としてより高度な臨床実践能力を身につける。<br/>(4名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>(宇都宮敦浩 / 全15回)</p> <p>司法・矯正領域における地域援助の実践力を身につける。<br/>(大石英史 / 全15回)</p> <p>福祉領域における地域援助の実践力を身につける。<br/>(中村真樹 / 全15回)</p> <p>集団支援におけるより高度な考え方を身につける。<br/>(吉村隆之 / 全15回)</p> <p>教育領域における地域援助の実践力を身につける。<br/>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>  | 共同  |
|                        | 臨床心理実践<br>研究Ⅳ<br>(心理実践実習) | <p>地域援助者として必要な総合的臨床地域援助能力を身につける。<br/>(4名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>(吉村隆之 / 全15回)</p> <p>地域援助におけるコミュニティ心理学の視点を身につける。<br/>(中原睦美 / 全15回)</p> <p>医療領域における地域援助の実践力を身につける。<br/>(稲谷ふみ枝 / 全15回)</p> <p>臨床地域援助における総合的な視点を身につける。<br/>(高橋佳代 / 全15回)</p> <p>種々の文献を通して多様な地域援助のあり方を学ぶ。<br/>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>                                     | 共同  |

授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分               | 授業科目の名称                     | 講 義 等 の 内 容   | 備 考 |
|------------------------|-----------------------------|---|-----|
| 臨床心理<br>学展<br>開科<br>目群 | 臨床心理地域<br>援助実習Ⅰ<br>(心理実践実習) | <p>学外実習により、心理支援の実践力を修得することを目的とする。<br/>各機関の機能とスタッフの職務及び臨床心理士の役割について学習する。<br/>(8名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>(久保陽子・稲谷ふみ枝 / 15回)</p> <p>福祉領域の各実習機関についての理解を図る。<br/>(中原睦美・中村真樹 / 15回)</p> <p>医療領域の各実習機関についての理解を図る。<br/>(宇都宮敦浩・高橋佳代 / 15回)</p> <p>司法・矯正領域の機関についての理解を図る。<br/>(吉村隆之・大石英史 / 15回)</p> <p>教育領域の各実習機関についての理解を図る。<br/>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>    | 共同  |
|                        | 臨床心理地域<br>援助実習Ⅱ<br>(心理実践実習) | <p>学外機関における心理査定のある方について、基本的な考え方と技術を学び、臨床心理査定の実践力を身につける。<br/>(8名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>(中原睦美・中村真樹 / 15回)</p> <p>医療領域における臨床心理査定の実践力を身につける。<br/>(宇都宮敦浩・高橋佳代 / 15回)</p> <p>司法・矯正領域における臨床心理査定の考え方を身につける。<br/>(吉村隆之・大石英史 / 15回)</p> <p>教育領域における臨床心理査定の実践力を身につける。<br/>(久保陽子・稲谷ふみ枝 / 15回)</p> <p>福祉領域における臨床心理査定の実践力を身につける。<br/>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p> | 共同  |
|                        | 臨床心理地域<br>援助実習Ⅲ<br>(心理実践実習) | <p>学外機関における心理面接のある方について、基本的な考え方と技術を学び、臨床心理面接の実践力を身につける。<br/>(8名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>(宇都宮敦浩・高橋佳代 / 15回)</p> <p>司法・矯正領域における臨床心理面接の考え方を身につける。<br/>(中原睦美・中村真樹 / 15回)</p> <p>医療領域における臨床心理面接の実践力を身につける。<br/>(吉村隆之・大石英史 / 15回)</p> <p>教育領域における臨床心理面接の実践力を身につける。<br/>(久保陽子・稲谷ふみ枝 / 15回)</p> <p>福祉領域における臨床心理面接の実践力を身につける。<br/>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p> | 共同  |

授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分                                       | 授業科目の名称                     | 講 義 等 の 内 容   | 備 考 |
|--|-----------------------------|---|-----|
| 臨<br>床<br>心<br>理<br>学<br>展<br>開<br>科<br>目<br>群 | 臨床心理地域<br>援助実習Ⅳ<br>(心理実践実習) | <p>学外機関における集団支援及び地域支援のあり方について基本的な考え方と技術を学び、心理支援の応用的実践力を身につける。<br/>                     (8名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>                     (中原睦美・中村真樹 / 15回)</p> <p>医療領域における集団・地域支援の実践力を身につける。<br/>                     (宇都宮敦浩・高橋佳代 / 15回)</p> <p>司法・矯正領域における集団・地域支援の実践力を身につける。<br/>                     (吉村隆之・大石英史 / 15回)</p> <p>教育領域における集団・地域支援の実践力を身につける。<br/>                     (久保陽子・稲谷ふみ枝 / 15回)</p> <p>福祉領域における集団・地域支援の考え方を身につける。<br/>                     また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p> | 共同  |
|  | 総合的事例研究<br>演習Ⅰ              | <p>2年間の専門職学位課程のまとめとして、臨床心理士業務の4つめの柱であるリサーチ能力を養成するため、研究倫理ガイドラインにそった事例論文のあり方を学ぶ。<br/>                     (8名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>                     (稲谷ふみ枝/ 15回) (宇都宮敦浩/ 12回) (大石英史 / 12回)<br/>                     (久保陽子 / 12回) (中原睦美 / 12回) (高橋佳代 / 12回)<br/>                     (中村真樹 / 12回) (吉村隆之 / 12回)</p> <p>筆頭教員による3回の全体授業と8名の担当教員により、事例論文執筆に際しての視点のあて方や論文の書き方などを合同及び個別にて指導する。</p>  | 共同  |
|  | 総合的事例研究<br>演習Ⅱ              | <p>総合的事例研究演習Ⅰを受け、主に自分が担当した心理相談事例を基に事例研究論文執筆や発表を通して臨床体験を根付かせる。<br/>                     (8名の教員による共同担当 / 全15回)<br/>                     (宇都宮敦浩/ 15回) (稲谷ふみ枝/ 13回) (大石英史 / 13回)<br/>                     (久保陽子 / 13回) (中原睦美 / 13回) (高橋佳代 / 13回)<br/>                     (中村真樹 / 13回) (吉村隆之 / 13回)</p> <p>筆頭教員による2回の全体授業では、事例研究論文の構成や執筆のあり方及び臨床心理士としての職業倫理や事例研究論文における研究倫理について学習する。さらに、8名の担当教員により、各臨床ゼミにおいて、論文執筆の事例の選択、テーマの絞り込み、キーワード決定、論文の構成、面接過程のまとめ方、倫理的配慮など、事例論文執筆の具体的な段階に関する指導を行う。最後の4回は事例研究論文発表会を開催し、2年間の学習の総括を行う。</p>  | 共同  |

## 授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分                        | 授業科目の名称                          | 講 義 等 の 内 容   | 備 考 |
|---------------------------------|----------------------------------|---|-----|
| 選<br>択<br>必<br>修<br>科<br>目<br>群 | 学校心理臨床論<br>(教育分野に関する理論と支援の展開)    | <p>学校現場では、不登校、いじめ、特別支援、虐待など多様な問題が取り扱われるが、それらの理解と支援は、3つの対象と段階に分けることができる。すべての子どもを対象とした予防、および成長促進的な段階、問題として深刻化していないが、本人や周りが気になっている子どもや大人を対象とした早期発見、早期対応の段階、不登校やいじめなど問題として顕在化している特定の子どもや家庭を対象とした、事後対応の段階の3つである。本授業では、各段階における支援方法を、講義と演習を通して学ぶ。</p> <p>また支援を行う上では、学校内外での関係構築が必要であり、関係者との協働は重要なテーマである。支援の土台となる関係をどのように築くのか、またその支援はどのように関係構築につながるのか、その連関についても学んでいく。また、本講義では、教育分野における臨床心理士及び公認心理師の実践について学ぶ。</p> |     |
|                                 | 福祉心理臨床論<br>(福祉分野に関する理論と支援の展開)    | <p>福祉分野における諸問題は、心身の発達や虐待など子どもに関わる問題から、障害者支援、女性問題、高齢者の問題などと多岐に渡り、かつ輻輳している。また、多様な福祉施設においては、様々な支援制度のもと多職種協働・連携が求められる現状にある。そこで本演習では、これら子どもや障害者、女性、高齢者の福祉において生じる問題及びその背景、福祉施設の役割、関連する支援制度などについて概観した上で、福祉現場における心理社会的課題とその心理的支援のあり方について事例検討やグループディスカッションを行い、福祉分野に関わる臨床心理士及び公認心理師の実践について理解を深める。</p>   |     |
|                                 | 医療心理臨床論                          | <p>本演習では、医療現場における各領域の疾患や問題、心理職の職務の実際について、全体を3部に分けて幅広く学ぶ。第1部では、主に精神科領域における多職種連携、矯正施設における精神科医療、医療観察法と心理臨床等について基礎的理解を深める。第2部では、気分障害、不安障害、身体表現性障害、強迫性障害、睡眠障害について学び、地域の精神科医療における心理職の役割について理解を深める。第3部では、小児科における心理職の業務内容や役割について学び、小児がんや慢性疾患などに関わる心理的問題について理解を深める。</p>  |     |
|                                 | 司法・矯正心理臨床論                       | <p>本授業では、犯罪・非行に関する理論的な考察を行い、理解を深めるとともに、施設見学や演習を通じて実際的な学習を行う。まず、犯罪・非行のメカニズム、犯罪社会学、女性と犯罪、加害者家族・被害者支援等について、文献購読を中心に概観する。次に、司法・矯正領域で働く心理臨床家の実務について、関係施設の見学を通じて体験的に学ぶ。さらに、薬物依存者へのグループアプローチや性犯罪者のリスクアセスメントについて、視聴覚教材の視聴やディスカッションを通じて学習し、まとめの授業として、公刊された文献での精神鑑定事例等について討議を行い、実際的に理解を深めていく。</p>   |     |
|                                 | 臨床精神医学特論<br>(保健医療分野に関する理論と支援の展開) | <p>精神医学、精神医療は病的な精神状態を扱う医学、医療の一分野であるが、その内容は自然科学、人文学、司法、人権、社会保障など、極めて広い裾野を有する。本演習では、精神医学の基礎的な知識を広く獲得することを目的とするが、中でも一般的な精神科医療機関で接する頻度の高い精神疾患や、精神科診療に従事する際に知っておくべき精神医療独特の法制度などについては、より詳しく解説する予定である。本演習を通して精神医学の知識を学ぶとともに、精神科医療の現場に対する関心が深まることを期待する。また、保健医療分野に関する臨床心理士及び公認心理師の実践についても学ぶ。</p>   |     |



## 授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分                        | 授業科目の名称       | 講 義 等 の 内 容  | 備 考   |  |
|---------------------------------|---------------|--|---|--|
| 選<br>択<br>必<br>修<br>科<br>目<br>群 | 領域<br>科目<br>群 | 臨床心理倫理特論   |   |  |
|                                 |               | 心理臨床を業務とする職において、その前提は社会がその行為を援助行為と認めることにある。この社会との契約において、臨床心理士や国家資格である公認心理師には、対象者への責任のある援助を保証するための倫理的判断・意思決定・行為を学ぶことが義務付けられている。本講義では、日本臨床心理士会「倫理ガイドライン」や「公認心理師の職責」の基本テキストの講読や講義を通して、援助専門職のための職業倫理を学ぶことと、具体的な臨床場面でのより良い倫理的判断に基づいた臨床行為ができるための基礎訓練の機会を提供したい。 |   |  |
|                                 |               | 児童期心理臨床論   | 児童は社会的状況の中で成長するものであり、認知能力、情緒的反応、関係性の能力、社会的行動等の児童の発達の様々な側面が研究されてきた。そして今日、児童を取り巻く環境はじわじわと児童にとって窮屈なものになり、その中で堪え切れなくなった児童は、さまざまな不適応反応を示す。本講義では、児童期におけるアイデンティティ形成過程について講じるとともに、様々な臨床的症候群や児童虐待などの問題を取り上げ、心理臨床家としての心理的援助の在り方について考える。 |  |
|                                 | 発達<br>科目<br>群 | 成人・老年期心理臨床論  | 近年の発達観やライフスタイルの変化を背景とした、成人期以降の発達課題や精神機能、成人後期・老年期における心理的適応について学習する。成人以降を対象として、医療・福祉領域といった分野で施行されている心理査定、心理療法、ストレス支援の知識・技術を学び、臨床心理士としての専門性と他職種との連携のあり方を学ぶ。  |  |
|                                 | 発達障害者心理臨床論    | 発達障害児・者について、診断学的な特徴、行動面・情緒面の諸特徴について学び理解を深める。発達障害に関する先端的な研究知見や、ライフステージに応じた支援の在り方について学ぶことで、教育・医療・福祉・司法等の各領域の現場の臨床心理士に必要とされる対応のあり方を学ぶ。また、発達障害の理解に重要となる、認知能力・発達障害症状に対するアセスメントについて学ぶ。   |   |  |

授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分                        | 授業科目の名称                              | 講 義 等 の 内 容  | 備 考 |
|---------------------------------|--------------------------------------|--|-----|
| 選<br>択<br>必<br>修<br>科<br>目<br>群 | 臨床心理支援<br>特論                         | <p>心理臨床に関わる基礎的理解を踏まえて、心理面接技法とその臨床現場での応用に焦点を当て、学習を深化させることを目標とする。<br/>                     (2名の教員によるジョイント担当)<br/>                     (久保陽子/ 7回 授業オリエンテーションを含む)<br/>                     臨床心理学に関する理論的理解を深めるために、実践的観点から臨床心理学的見立て、クライアント理解、面接の進め方等について学ぶ。<br/>                     (大石英史/ 7回)<br/>                     学校臨床の中心的領域である不登校支援について、援助者が経験する重要な臨床的局面を取り上げ、そこにどう向き合っていくかについて考えると共にフォーカシングを用いて臨床体験を振り返る方法を習得する。<br/>                     (大石英史・久保陽子/ 1回)<br/>                     最終回はレポート試験を行う。</p> | 共同  |
|                                 | 臨床心理査定<br>特論                         | <p>本演習では、検査や面接等から得られた情報を分析・解釈し、対象者を的確に査定するための基礎的技術を習得することを目標とする。公共性(客観性)と共感性の双方を大切にしつつ、特に、複数の量的指標や質的データの統合的な理解の方略について、具体的事例の検討や所見作成を通じて実践的に学んでいく。</p>  |     |
|                                 | 遊戯療法論                                | <p>クライアントを「遊戯(プレイ)」により理解し、援助する遊戯療法について、遊戯療法の過程でセラピストが直面すると思われる重要な具体的課題に焦点をあてて講義を行う。子どもに対する心理援助を考えると、プレイセラピーはダイナミックで効果的な働きかけである。子どもは自ら成長し、発達していく創造的な力を持っている。セラピストがプレイを通して子どもの世界をいかに理解し支援していくのか、具体的事例を取り上げながら学ぶ。</p>   |     |
|                                 | 集団心理臨床論                              | <p>臨床心理学における集団心理療法は、病院や施設での患者(クライアント)や施設利用者の適応的な方向への行動変容や人格の成長・発達を援助することが目的であり、そのための集団による言語的・非言語的な心理療法的介入の方法である。本講義では、まず集団心理療法の基本的な理論を学習するとともに臨床適用のための基本的な方法について学ぶ。さらに、代表的な集団心理療法の一つであるサイコドラマの理論と方法を学び、臨床実践への応用法を学ぶ。</p>   |     |
|                                 | ストレスマネジメント論<br>(産業・労働分野に関する理論と支援の展開) | <p>臨床心理学と健康心理学という広い視野から、ストレスマネジメント論を通して、心の健康教育に関する理論と実践を紹介する。ストレスに対するケアと予防に関する理論をベースとして、ケアの効果について論じる。応用領域として産業・労働、医療、福祉、学校での支援と実践について紹介する。また臨床心理士及び公認心理師としての実践にも言及する。</p>  |     |
|                                 | 認知行動療法論                              | <p>本講義では、第一世代から第三世代にわたる認知行動療法の発展の歴史を踏まえつつ、各世代の基礎理論と具体的技法について、文献読解、講義に加えてロールプレイを取り入れながら体験的に学習する。また、認知行動療法が適用となる不安障害、気分障害の発生要因を説明する疾患病理モデルやケースフォーミュレーションを学び、精神疾患の発症に関連が深い心理的要因と心理アセスメントのあり方について理解を深める。さらに、介入技法に共通性が多いと言われている第三世代の認知行動療法とわが国で開発された森田療法との比較検討を行ない、認知行動療法の特質について論考を深める。</p>   |     |

## 授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分                        | 授業科目の名称    | 講 義 等 の 内 容  | 備 考 |
|---------------------------------|------------|--|-----|
| 選<br>択<br>基<br>礎<br>科<br>目<br>群 | 臨床心理学入門    | 本講義は、心理学ならびに臨床心理学の基礎的知識を習得することを目的とする。心理学の中での臨床心理学の位置づけや臨床心理学の概要、心理療法の歴史、基本的な心理療法理論や技法、心理査定、心の問題と心理的支援の具体的アプローチのあり方などについて幅広く学習する。講義に加え、さまざまな視覚教材を導入したり、受講生同士によるディスカッションを加えたりしながら、専門職学位課程の基礎となる知識の定着を図る。学部で臨床心理学を専攻した人も歓迎する。   |     |
|                                 | 学習・行動心理学特論 | 我々を取り巻く環境は常に変化している。この流動化した環境でうまく生きていくためには、我々は常に新しいことを学んで行動していかねばならない。本年度の講義では、この学習と行動のメカニズムについて行動科学的、神経科学的に概説した上で、系統発生および個体発生の見地から、学習の適応機構としての位置付けを考察する。授業では、単に講義を聴くのみではなく、毎回レポーターが与えられたテーマについて調べてきたことを発表し、それをもとに全体で討論を行う。   |     |
|                                 | 認知心理学特論    | 生活体の本質は行動であり、行動の本質は学習にある。また学習が生じるのは記憶というメカニズムが存在するものであり、学習の本質は記憶である。また記憶されるものは、感覚や感情といった経験である。では、感覚や感情とはいったい何か。このように、本講義では私たちヒトを含む生活体の持つ様々な機能を統一的な視点から概観することにより、基礎的な生体機能の理解とともに、それがどのように臨床援助に役立つかを考える。講義を中心に進めるが、必要に応じて視聴覚教材等も効果的に盛り込む。受講者は既に一定レベルの知識を有していると思うが、再度視野を広げるといふ視点から積極的に参加して頂きたい。 |     |
|                                 | 社会心理学特論    | 人間は社会的動物であり、社会との関係性を抜きに人の心理や行動をとらえることは難しい。本講義では、人間の心理と社会現象との関係を分析するために社会心理学の知識と研究法を習得することを目標とする。特に、近年社会心理学の分野で注目されている、進化心理学と文化心理学について詳しく紹介する。授業では、複数のテキストを用いて受講生が発表、討論を行い、それらを通して、人の普遍性と多様性について社会心理学の視点から考察できるようになることを目指す。   |     |
|                                 | 生涯発達論      | 昨今の社会の急激な変化（自然及び生活環境の悪化、家庭機能の不全化など）によって、人の人格発達の過程は大きな影響を受け揺らいでいる。幼児虐待、不登校から引きこもりへ、青少年の病的な犯罪、中高年の自殺や危機などといった現象は、その背景にある発達的問題の解明と解決を追っており、その要請に貢献できる研究分野として生涯発達（life-span development）心理学がある。本講義では、生涯発達の各段階の特徴的テーマとそれにまつわる臨床的問題に関する諸研究について学ぶ。  |     |

## 授 業 科 目 の 概 要

| 科目<br>区分                        | 授業科目の名称  | 講 義 等 の 内 容   | 備 考 |
|---------------------------------|--|---|-----|
| 選<br>択<br>基<br>礎<br>科<br>目<br>群 | コミュニティ心理学特論<br>(家族関係・<br>集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) | <p>コミュニティ心理学では、現代社会における個人と環境との適合の在り様を理解し、両者の関係性に実践的に介入することを目指している。このアプローチは、臨床心理的地域援助と重なる臨床心理学的実践における中心概念であり、臨床心理査定、臨床心理面接と並んで臨床心理士に求められる重要な技能でもある。本講義ではコミュニティ心理学が依拠する基本理念について理解し、様々な臨床領域におけるコミュニティ援助の実際をオープンダイアログやベテランの家の実践を参照しながら学んでいく。</p> <p>これらの学習を通して、臨床心理士及び公認心理師による家族の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法、地域社会や集団・組織に働きかける心理学的アプローチに関する理論と方法、心理に関する相談、助言、コンサルテーション等への応用についても理解を深める。授業は、受講生によるプレゼンテーションとグループディスカッションを中心に進めていく。</p> |     |
|                                 | 臨床精神薬理学特論  | <p>医薬品の創薬プロセス、処方薬としての化学名を商品名、先発医薬品と後発医薬品薬の相違を知り、くすりを身近に感じる知識を習得し、臨床心理士がくすりのことを知る構えについて学ぶ。その上で、向精神薬：抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬などのこのころの病に用いられる薬に精神薬理学的知識を得て、医師や薬剤師とコラボレートする能力と服薬を支えることを通したクライアントの生活支援のあり方について学ぶことを目標とする。</p>   |     |